

「経済」 教師用参考資料

2013年 第1回試験

「経済」 教師用参考資料

2013年 第1回試験

ディプロマプログラム (DP)

「経済」教師用参考資料

2011年2月に発行の
英文原本 *Economics teacher support material* の日本語版
2014年11月発行

本資料の翻訳・刊行にあたり、
文部科学省より多大なご支援をいただいたことに感謝いたします。

注： 本資料に記載されている内容は、英文原本の発行時の情報に基づいています。なお、日本語版『「経済」教師用参考資料』には、生徒による課題サンプルとその採点例は含まれていません。

非営利教育財団 国際バカロレア機構
(International Baccalaureate Organization)
15 Route des Morillons, 1218 Le Grand-Saconnex, Geneva, Switzerland

発行所
International Baccalaureate Organization (UK) Ltd
Peterson House, Malthouse Avenue, Cardiff Gate
Cardiff, Wales CF23 8GL, United Kingdom

ウェブサイト : www.ibo.org

© International Baccalaureate Organization 2014

国際バカロレア機構 (以下、「IB」という。) は、より良い、より平和な世界の実現を目指して、チャレンジに満ちた4つの質の高い教育プログラムを世界中の学校に提供しています。本資料は、そうしたプログラムを支援することを目的に作成されました。

IBは、資料の中で利用する多様な情報源について、情報の正確さと信憑性を確認します。ウィキペディアのようなコミュニティーベースの知識源を使用する際には、特に留意します。IBは知的財産の原則を尊重し、利用する著作物すべてについて刊行前に著作権者を特定し、許諾を得るよう常に努力します。IBは、本資料で利用した著作物に対して許諾をいただいたことに感謝するとともに、誤記および遺漏がありました場合には、可能な限り早急に訂正いたします。

本資料に関するすべての権利はIBに帰属します。法令またはIB内部規則もしくは方針に明記されていない限り、IBの事前承諾書なしに、本書のいかなる部分も、形式と手段を問わず、複製、検索システムへの保存、送信を禁じます。詳しくは www.ibo.org/copyright をご覧ください。

IBの商品と刊行物は、IBストア (<http://store.ibo.org>) でお求めください。ご注文については、販売・マーケティング部にお問い合わせください。

電子メール : sales@ibo.org

International Baccalaureate、Baccalauréat International および Bachillerato Internacional は、International Baccalaureate Organization の登録商標です。

IBの使命

IB mission statement

国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。



IBの学習者像

すべてのIBプログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

この「IBの学習者像」は、IBワールドスクール（IB認定校）が価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。

目次

はじめに	1
本資料の目的	1
概要	2
内部評価の特徴と目的	2
内部評価——概説	3
要件	5
プロセスの管理	9
教師の責任	11
生徒の責任	15
学問的誠実性と出典の明記	16
内部評価規準——S LおよびH L	17
付録	21
よくある質問	21
チェックリスト	26
各種書式	29

本資料の目的

本資料『「経済」教師用参考資料』は、上級試験官チーム（senior examining team）の協力を得て作成されました。IB資料『「経済」指導の手引き』（2014年11月刊、2013年第1回試験）と併せてお読みください。

本資料は、以下を目的としています。

- ・ 教師が内部評価課題として評価を行う「^{コメントリー}論評」の適切な例を示す。
- ・ 内部評価課題への取り組み方や、リサーチ、執筆、プレゼンテーションについての指導方法を説明する。
- ・ 評価規準の適用方法を実際の採点例を通じて説明する。

本資料では、標準レベル（SL）と上級レベル（HL）の内部評価の要件について概説します。なお、英語版の教師用参考資料には、内部評価課題のサンプルが収載されています。[訳注] 生徒による課題サンプルは、日本語版には含まれていません。

また、本資料では、以下についても詳しく解説しています。

- ・ 内部評価課題への取り組み方と提出方法
- ・ 「指導の手引き」で示されている評価規準
- ・ よくある質問
- ・ 教師用および生徒用チェックリスト
- ・ 各種書式

本資料を活用する際には、IB資料『「経済」指導の手引き』（2014年11月刊）を参照するようにしてください。教師は「指導の手引き」を生徒に示し、内容について話し合うことが推奨されています。

試験問題の見本は別途入手可能です。

国際バカロレア（IB）は本資料の作成にあたり、リソースを提供していただき、協力してくださった企業の皆様に感謝の意を表します。なお、課題サンプルの中で提示されている情報や見解はその課題に取り組んだ生徒のものであり、必ずしも正確な事実を反映していない場合があります。

『「経済」教師用参考資料』で取り上げられている課題サンプルは、実際に生徒が取り組んだものです。原文のままのため、つづりや文法などの誤りを含む場合があります。必要に応じ、匿名処理が施されています。また、著作権上の理由により、第三者による著作物の一部は削除、または必要に応じ要約されています。

内部評価の特徴と目的

内部評価は「経済」の授業と一体を成す要素であり、SLとHLのいずれのレベルにおいても必須です。最終評価の20%を占めます。

内部評価の評価要素は、興味深くかつ生産的なものであるとともに、「経済」の評価において重要な一部分となるものです。したがって、教師が生徒を適切に指導することがきわめて重要です。生徒には、IB資料『「経済」指導の手引き』（2014年11月刊）の「内部評価の詳細」と「内部評価規準」の各セクションのコピーを必ず配布するようにしてください。

「経済」における内部評価

筆記試験と異なり、内部評価では、時間的な制約を受けずに経済理論に関する自らの知識と理解を実社会の状況に適用することができます。報道記事の抜粋を取り上げ、3つのコメンタリー論評から成るポートフォリオを作成することには、数々の利点があります。

ポートフォリオの利点には、以下のようなものが挙げられます。

- ・ 現代的な諸課題についての生徒の関心を喚起する。
- ・ 経済理論についてより詳細に探究する機会を設けることができる。
- ・ 生徒が経済学の中でも特に関心をもった要素について、学習を深めることができる。国際問題に焦点をあて、経済の世界的な影響についての理解を広げるか、または自分の国や地域に関連する特定の問題に焦点をあてるかのいずれかに取り組む。
- ・ 動機づけとして活用し、授業と関連づけたり授業を活性化させたりすることができる。シラバスで定められた規定の学習内容を増やすものではないため、授業や宿題の一部として自然に取り込むことができる。
- ・ 学習プロセスの中に、生徒が自分自身の熱意と達成感を感じられる取り組みを設けることができる。

内部評価——概説

ポートフォリオ——標準レベル (SL) および上級レベル (HL)

「経済」の内部評価は、生徒が経済理論に関する自らの知識と理解を実社会の状況に適用する力があることを示す課題です。生徒はポートフォリオの準備、および完成に向けて取り組むことを通じて、その力を示します。

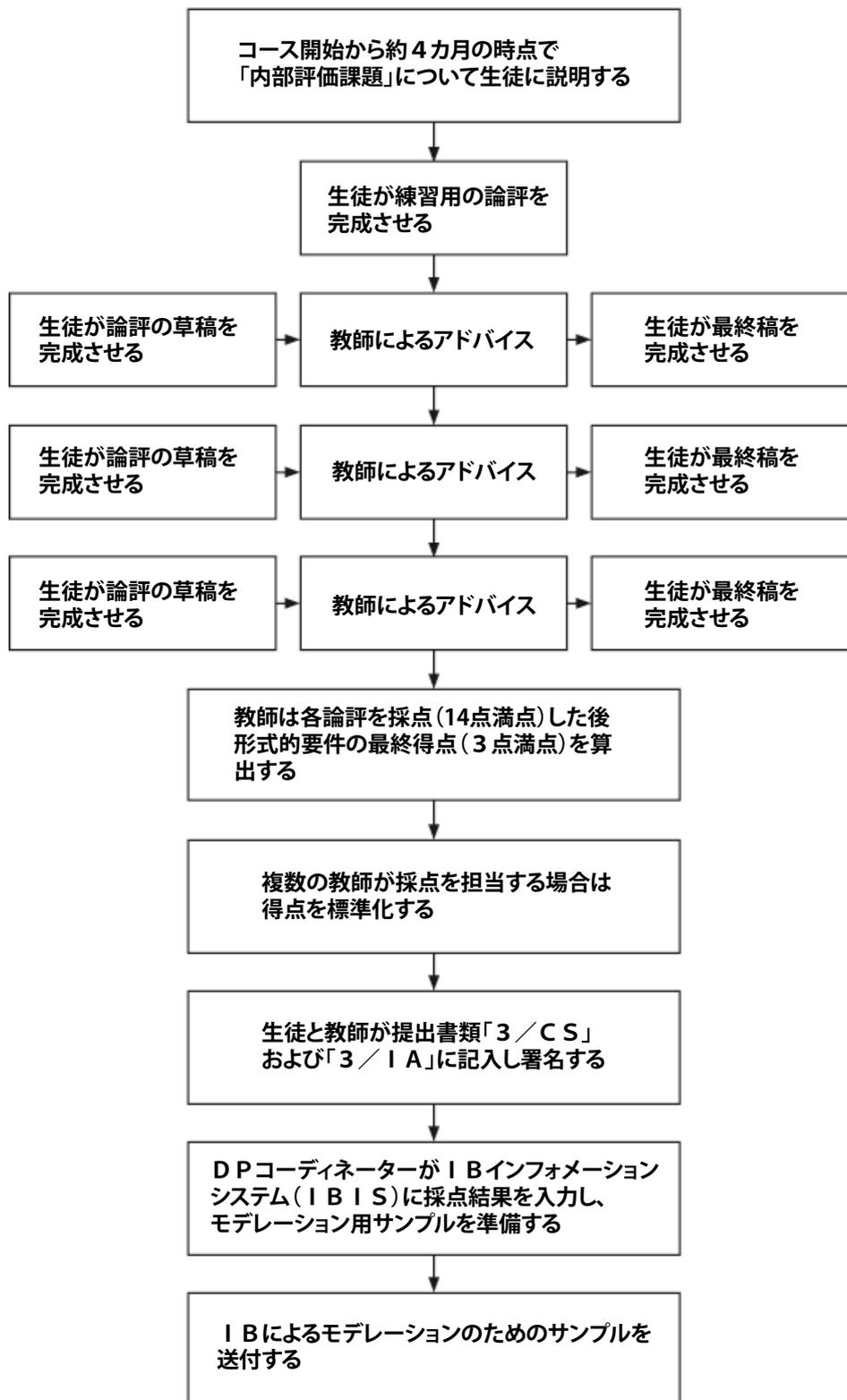
ポートフォリオについて

- ・ 授業時間 20 時間を割りあてる。
- ・ 各生徒がそれぞれに記事を特定し^{コメントリー}論評を執筆する。
- ・ 3つの^{コメントリー}論評でポートフォリオを構成する。
- ・ 各^{コメントリー}論評は、750 語（日本語の場合は 1500 字）以内。
- ・ 授業を担当する教師が採点する。
- ・ IBによるモデレーション（評価の適正化）が実施される。
- ・ SLとHLのいずれにおいても最終評価の20%を占める。

詳細は、IB資料『「経済」指導の手引き』（2014年11月刊）の「内部評価」のセクションを参照してください。

内部評価の準備と完成

以下は、ポートフォリオ作成のプロセスをフローチャートで示したものです。



要件

「経済」の生徒（SLおよびHL）は、報道記事に基づく3つの^{コメンタリー}論評で構成されるポートフォリオを作成します。記事は、それぞれ以下のシラバスの中の異なるセクションに関連する内容のものを選びます。

- ・ ミクロ経済学
- ・ マクロ経済学
- ・ 国際経済学
- ・ 開発経済学

形式的要件

^{コメンタリー}論評を作成する際、以下の要件を守らなければなりません。これらの要件が守られていない場合は、「評価規準F：形式的要件」で減点されます。

1. 語数（字数）制限

生徒は3つの^{コメンタリー}論評でポートフォリオを構成します。各々の^{コメンタリー}論評は750語（日本語の場合は1500字）を超えてはなりません。

注：各論評が750語（1500字）を超えた場合、モデレーション（評価の適正化）を担当するモデレーターは、超過した部分には目を通しません。

以下の項目は、語数（字数）制限の対象外です。

- ・ 謝辞
- ・ 目次
- ・ 図表
- ・ 図表の項目名——5語（10字）以下
- ・ 図表のタイトル——10語（20字）以下
- ・ 統計データの表
- ・ 等式、公式、計算
- ・ 文献対照注（使用する場合は必ず^{コメンタリー}論評の本文中に挿入）
- ・ 参考文献（使用する場合は必ず脚注または文末脚注に表記）

脚注または文末脚注は、出典を記す目的にのみ使用可能です。経済用語の定義および引用を用いる場合は、必ず本文中に挿入し、語数（字数）制限の対象に含めなければなりません。文献対照注は^{コメンタリー}論評本文につける簡略な文献出典情報のことで、引用元の完全な出典は脚注または文末脚注で記載します。

2. 記事

記事は、それぞれシラバスの中の異なるセクションに関連する内容のものを選びます。

3. 情報源

生徒は必ず^{コメンタリー}論評ごとに異なる情報源を用いなければなりません。

4. 最新の記事

生徒は時事問題に関連する記事を探します。記事は^{コメンタリー}論評の執筆時点からさかのぼって1年以内に発行されたものでなければなりません。

5. 内容

各ポートフォリオには必ず以下を含めなければなりません。

- ・ ポートフォリオ全体のカバーシート (summary portfolio coversheet)
- ・ ^{コメンタリー}論評ごとのカバーシート (commentary coversheet)
- ・ 3つの^{コメンタリー}論評とそれぞれの^{コメンタリー}論評の対象となった記事

抜粋の選び方

記事の性質

^{コメンタリー}論評の執筆を成功させる上で最も重要なのは、適切な記事を選択することです。選択する記事は必ずしも経済記事である必要はありません。経済理論や概念の適用は、多くの分野に見られるからです。むしろ経済記事でないほうが、一見、経済との関連が明らかでないものについて生徒が経済分析を導入することができるため、効果的な場合があります。

英経済誌「エコノミスト」のように経済分析をかなり含んだ^{コメンタリー}記事^{コメンタリー}を論評の対象記事とすることは認められていますが、分析をさらに発展させる余地があまり残されていない場合があります。

適切な記事とは

^{コメンタリー}論評の対象となる記事は、報道記事（新聞、雑誌またはインターネット）から選びます。時事問題に関連する記事を生徒が探します。記事は^{コメンタリー}論評の執筆時点からさかのぼって1年以内に発行されたものでなければなりません。

インターネットは記事を見つけるのに適した情報源です。ただし、適切なのは報道機関のウェブサイトのみです。内部評価では、一般に認められた報道機関によるブログでない限り、ブログの使用は認められていません。生徒は、記事のインターネット掲載日だけでなく、発行日の詳細を正確に記録するようにします。

^{コメンタリー} 論評の対象として画像（写真、漫画および広告など）を用いることはできません。これらは、内部評価のために使用する記事としては認められません。

生徒は、自ら分析したり評価したりする余地がほとんどないような記事を選ばないように注意します。

記事の書かれた時期

「経済」の履修期間を通じて、生徒に^{コメンタリー} 論評用の記事を収集するよう推奨することは^{コメンタリー} 論評の執筆に役立ちます。ただし、^{コメンタリー} 論評は記事の発行日から1年以内に執筆しなければなりません。

記事の長さ

比較的短い記事を選ぶほうが経済理論または概念が1個ないし2個に絞り込まれていることが多いので、優れた結果になります。記事は、A4またはレターサイズの約1ページ分（10～12ポイントのフォントサイズで通常の行間を使用した場合）から2ページ（表裏両面）を超えない長さを大まかな目安としてください。モデレーター（外部試験官）は記事が2ページ以上になった場合、超過部分には目を通さないで、注意が必要です。

短すぎる記事には通常、分析に値するような興味深い問題は含まれていないでしょう。

生徒が長文記事の使用を望む場合は、記事の原文を必ず完全な形で本文に含め、選択した部分をハイライト表示するようにします。こうすることで、生徒は^{コメンタリー} 論評に関連する部分にのみ集中することができます。また、生徒は教師およびモデレーターがハイライト表示された部分にしか目を通さないことと、そのため^{コメンタリー} 論評に関連するセクションを**すべて**ハイライト表示するのが非常に重要であることに留意しなければなりません。

記事の言語

^{コメンタリー} 論評の対象として選んだ記事と^{コメンタリー} 論評で使用する言語は同一であることがほとんどでしょう。別の言語で書かれた記事を使用する場合、生徒は必ず記事全文の正確な翻訳文を提供しなければなりません。また、生徒はポートフォリオの中に必ず記事の原文を含めます。

生徒が長文の記事の使用を望む場合は、記事（原文と翻訳の両方）の選択した部分を必ずハイライト表示します（詳細は「記事の長さ」を参照）。

記事および論評に対する個々の取り組み

生徒は必ず、分析用の記事を自分で選択しなければなりません。したがって、教師がクラス全体、または生徒のグループに記事もしくは記事の抜粋を配布することはできません。生徒が偶然に同じ記事を選択することはあり得ます。このような場合、その生徒同士が別々にその記事を選択したと教師が確信できるのであれば問題ありません。ただし、場合によっては教師が生徒に別の記事を選択するように求めることもできます。

要件

コメンタリー
論評の作成は各生徒が取り組みます。決して同じクラスの他の生徒と協働して準備してはなりません。また、授業の学習活動で使用了コメンタリー記事を元に論評を作成することはできません。

この件に関する詳細は、本資料の「教師の責任」および「生徒の責任」のセクションを参照してください。

プロセスの管理

時間配分

I Bへの提出期限に備えて設定された校内での提出期限に余裕をもって間に合うよう、教師が生徒に内部評価の準備をさせることは重要です。

教師は、生徒が記事に適切に取り組むための十分な経済学の知識を身につけたと判断した時点で、^{コメンタリー}論評の作成を開始することができます。これまでの経験から、生徒に対し内部評価の^{コンポーネント}評価要素を導入するのは、2年間の履修期間のうち、第1年次の半ばあたりが最適であるとされています。

3つの^{コメンタリー}論評は、約1年間にわたって執筆されることが望ましいでしょう。そうすれば、生徒はシラバスのほとんどの内容についての知識を得ることができるので、^{コメンタリー}論評に使用する経済的理論や概念の選択において制限を受けることもありません。

内部評価課題の校内での締切日は学校が設定します。生徒がその締切日を必ず認識しているようにしてください。

授業計画や締切日を設定する際、「経済」の教師は、ディプロマプログラムの他科目の担当教師やコーディネーターと共に締切日の調整をしてください。

練習用の論評

生徒が実際にポートフォリオの作成作業を開始する前に、^{コメンタリー}練習用の論評の作成を通じてポートフォリオ作成のプロセスを紹介することが強く推奨されています。^{コメンタリー}練習用の論評は、^{コメンタリー}形成的評価の対象とします。生徒は1つ（または複数の）の^{コメンタリー}練習用の論評に取り組むことができます。その後、「経済」を履修し終わるまでの期間に規則正しい間隔で3つの^{コメンタリー}論評を仕上げていくことが求められます。

生徒にあまり多くの^{コメンタリー}論評を書かせることは他のコースにおける学習活動の質を落としかねないため、生徒にとって有益なこととはいえません。

教室内での学習活動への統合

内部評価の課題は、通常の教室内での学習活動の一環として取り組みます。

以下のような活動が推奨されています。

- ・ 内部評価の性質と評価規準を提示し、それらについて議論する。
- ・ 使用するのにふさわしい報道関連の情報源についてアドバイスする。

- ・ 自分が適切だと思う記事をクラスに持参するよう生徒を促す。
- ・ コメントリー論評執筆の執筆方法について、コメントリー論評執筆のためのストラテジーや評価に特に留意し、議論する。

教師の責任

教師の役割

教師は、責任をもって、以下の項目を生徒にしっかりと理解させるようにしてください。

- ・ 内部評価用の学習成果物の要件
- ・ 記事の出所の性質
- ・ ポートフォリオの形式的な要件
- ・ 教師によるサポートの性質
- ・ 学問的誠実性に関する I B の方針
- ・ 学校が設定した校内の締切日
- ・ 評価規準——生徒は学習成果物がこれらの評価規準を効果的に反映したものでなければならないことを必ず理解すること

教師が行わなければならないこと

教師は必ず以下を行うようにしてください。

- ・ 生徒全員が学問的誠実性に関する概念、特に学習成果物が本当に生徒本人が取り組んだものであること、および知的所有権についての基本的な意味と重要性を理解していることを確認する。
- ・ 生徒の学習成果物がすべて要件に従って準備されていることを確認し、また、内部評価用に提出する学習成果物は必ず生徒自身によって作成されたものでなければならないことを明確に説明する。
- ・ 生徒が作成した内部評価課題の最初の草稿についてアドバイスする（ただし、ここで与えられるアドバイスは、どうすれば生徒の取り組みの質を高められるかについてであり、学習成果物に注釈を大量につけたり、大幅に編集を加えたりすることは認められません。なお、この草稿の次に生徒が教師に提出する学習成果物が最終版となります）。
- ・ 生徒がカバーシートに署名するのを確認する（署名により、生徒は学習成果物が本当に自分自身が取り組んだものであると認めたこととなります）。
- ・ 評価またはモデレーション（評価の適正化）のために I B に提出するすべての学習成果物に不正疑惑または不正行為そのものがないことを証明する。

- ・ 内部評価規準に基づき最終ポートフォリオの各論評^{コメンタリー}を採点し、DPコーディネーターのために提出書類「3/I A」および「3/C S」に必要事項を記入する。
- ・ 学習成果物が本当に生徒自身が取り組んだものであるかどうかを確認し、内部評価課題のカバーシートに署名する。

本当に生徒本人が取り組んだものであるかどうか

生徒本人が取り組んだものであるかどうかは、生徒と課題の内容について議論することと、次のいずれか（または2項目以上）を精査することを通じて確認します。

- ・ 生徒が最初に選んだ記事
- ・ 最初の草稿
- ・ 引用された参考文献
- ・ 生徒自身が書いたものであることがすでに確認されている他の学習成果物との文体の比較

教師と生徒が内部評価用の学習成果物のカバーシートに署名することは、評価の適正化を図るために試験官にサンプルとして提出する学習成果物だけに適用されるものではありません。すべての生徒の学習成果物に適用されます。教師と生徒がカバーシートに署名をした場合でも、その学習成果物が本当に生徒自身によって取り組まれたものであるかどうか疑問を提起するコメントがある場合、その学習成果物は採点対象外となります。その項目の評点は与えられず、成績評価も与えられません。詳細は、IB資料『学問的誠実性』と同（英語版）『*General regulations : Diploma Programme*（総則：DP編）』にある関連項目を参照してください。

推奨事項

教師は以下を行うことが強く推奨されています。

- ・ 最近の年度の「経済」の科目レポート（subject report）を読む。
- ・ 課題についての説明を記した生徒用冊子を用意する。
- ・ 授業時間のうち20時間を内部評価課題に割りあてる。
- ・ 内部評価規準をコピーして配布し、生徒がその規準についてよく理解しているようにする。
- ・ 生徒が読んで議論するためのポートフォリオのサンプルを提供する。
- ・ 生徒が論評用の記事を選択するにあたり、アドバイスし、指導する（教師が生徒のために記事を選択してはなりません）。
- ・ 優れた論評を作成する方法についてアドバイスし、指導する。
- ・ 生徒と共に練習用の論評^{コメンタリー}に取り組む。
- ・ 各生徒にポートフォリオ全体のカバーシート1枚と論評ごとのカバーシート3枚^{コメンタリー}を配布する。

論評およびポートフォリオ全体の評価

教師はそれぞれの^{コメントリー}論評を必ず個別に評価します。内部評価規準に照らしながら規準ごとにどのレベルが適切かを判断します。IB資料『「経済」指導の手引き』（2014年11月刊）の「内部評価への評価規準の適用」に指針が記載されています。また、同手引きの「内部評価規準——SLおよびHL」も参照してください。

各^{コメントリー}論評は規準A～Eを用いて評価されます（各^{コメントリー}論評の満点は14点）。3つの^{コメントリー}論評の合計点は42点満点です。

教師はその後、「規準F」に照らし^{コメントリー}ポートフォリオ全体（つまり、3つの^{コメントリー}論評）について形式的要件を評価し、採点を行います（3点満点）。

ポートフォリオ全体の総合評点は、45点満点です（各14点満点の^{コメントリー}論評3本＋3点＝42＋3点）。

ポートフォリオが「経済」を担当する複数の教師により評価される場合、それらの教師は必ず採点の標準化を行い、個々の生徒に与える点に合意しなければなりません。

学校内で担当教師が付与した点数は、その後IBによるモデレーション（評価の適正化）を受けます。モデレーションの結果、点数が変わる場合があるため、内部評価の点は生徒に伝えないようにしてください。

例外的な学習成果物

生徒が3つの^{コメントリー}論評をすべて作成することができなかった場合、学習成果物は必ず規定された要件に従って評価されなければなりません。

提出された^{コメントリー}論評は通常どおり採点されます（規準A～Eを用い、各^{コメントリー}論評につき最大14点を付与）。ポートフォリオ全体の形式的要件に関する「規準F」については、提出された^{コメントリー}論評について通常の採点方法で点数を付与した後、提出されなかった^{コメントリー}論評の分を減点してください。例えば、^{コメントリー}論評を2つしか提出しなかった生徒は1点減点され、1つしか提出しなかった生徒は2点減点されます。これは、IB資料『DP手順ハンドブック』に記載されている要件に則っています。

このような例外的な学習成果物は、クラス全体の得点に影響を与える可能性があるため、IBによるモデレーション（評価の適正化）のために外部モデレーターに提出するサンプルには絶対に含めないようにしてください。例外的な学習成果物および内部評価の全要件を満たしていない生徒のための手続きの詳細については、IB資料『DP手順ハンドブック』で説明されています。

ポートフォリオについての教師のコメント

教師が「教師用採点情報シート」(teacher marking information sheet)を使って各ポートフォリオの採点理由を提供することは非常に有用です。これは各^{コメントリー}論評の評価（規準A～E）と

ポートフォリオ全体（規準F）の評価にあてはまります。「教師用採点情報シート」の見本は本資料の「各種書式」のセクションに収載されています。コメント欄では、各評価規準について、その点数を付与した方法と理由について簡略に説明してください。これらのコメントは、モデレーターに点数の割りあてについての情報を提供することが目的です。したがって、コメントは生徒へのフィードバックの形をとるべきではありません。また、どのような状況においても、^{コメント}論評に教師が直接コメントを書き込んで**なりません**。

IBによるモデレーションのための学習成果物の提出

生徒が個々のポートフォリオを完成した後、教師と生徒は必ず以下を行います。

- ・ 各ポートフォリオにつき提出書類「3/C S」に必要事項を記入する。提出書類「3/C S」についてはIB資料『DP手順ハンドブック』の「セクション：個人と社会（グループ3）」を参照のこと。
- ・ 提出書類の「宣誓」（declaration）の欄に署名し、日付を記入する。

各生徒のポートフォリオ全体の総合評点は必ずDPコーディネーターに提出され、IBインフォメーションシステム（IBIS）に入力されなければなりません。これにより、モデレーションのためのサンプルが選択されます。

教師は必ずすべてのサンプルについて提出書類「3/I A」を記入しなければなりません。提出書類「3/I A」についてはIB資料『DP手順ハンドブック』の「セクション：個人と社会（グループ3）」を参照してください。また、本資料の「各種書式」のセクションにも見本が収載されています。

サンプル数は最も少ない場合で生徒5人分（少なくともその科目の履修者が5人いると想定）、最も多い場合で10人分です。教師は各生徒の^{コメント}論評を必ず書き込みのきれいな状態で提出するようにします。

モデレーターへのポートフォリオの送付は、DPコーディネーターが責任をもって行います。

生徒の責任

生徒は、責任をもって以下を行います。

- ・ 3つの^{コメンタリー}論評に使用する記事を自分で選択する。
- ・ 内部評価に関する規則を守る。
- ・ 締め切りを守る。
- ・ 情報またはアイデアの出典を学術的に認められた方法で明記する。
- ・ ポートフォリオ全体のカバーシート、および^{コメンタリー}論評ごとのカバーシートを添付する。

生徒には、以下を行うことが強く推奨されています。

- ・ 作業を早期に開始する。
- ・ 評価規準に十分に留意する。
- ・ 定期的に報道メディアによる情報をチェックする。
- ・ 各^{コメンタリー}論評の最終稿に誤りがないか注意深くチェックし、校正する。
- ・ 「生徒用のチェックリスト」（本資料の巻末に記載）を使用し、形式的要件がすべて守られているか確認する。

学問的誠実性と出典の明記

生徒全員が学問的誠実性に関する概念、特に学習成果物が本当に生徒本人が取り組んだものであること、および知的所有権についての基本的な意味と重要性を理解していることを確認するのは教師の責任です。教師は必ず、すべての生徒が要件に基づいて学習成果物を準備するように指導を行い、また、内部評価のための学習成果物は必ず生徒本人によって作成されたものでなければならないことを明確に説明しなければなりません。

以下の情報には、出典を明記する必要はありません。

- ・ 標準的な経済理論に基づく情報および分析
- ・ コメンタリー 論評の対象としている記事からの引用（以下を参照）

生徒は、上記のカテゴリーにあてはまらないものについてはすべて、学術的に認められている出典表記法を用い、一貫して出典を明記しなければなりません。

生徒は記事を引用することもできますが、多用し過ぎて自らの分析の余地がなくなるといふ慎重である必要があります。記事からの引用に出典を明記する必要はありませんが、これらは必ず引用符および行数や段落の番号などを用いて明確に特定されなければなりません。

インターネットからの引用を使用する場合は必ず完全な出所（完全なウェブアドレス、サイトにアクセスした日付も含む）を明記しなければなりません。

生徒は時折、通信社（例えばトムソン・ロイター、またはAP通信など）から配信され、別の会社が発行する出版物に掲載された情報を使用することがあります。この場合、生徒は通信社名ではなく、最終的にその記事が掲載された出版物を出典として明記しなければなりません。

内部評価規準——SLおよびHL

内部評価の要件はSL、HLともに同一です。

生徒は、報道メディアに公表された記事の抜粋に基づく3つの^{コメンタリー}論評を作成します。記事の抜粋は新聞、雑誌またはインターネットから選ぶことができますが、テレビまたはラジオの放送は使用できません。記事はシラバスの異なるセクション（マイクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学、開発経済学）に基づいたものでなければなりません。

概要

^{コメンタリー}各論評には5つの内部評価規準があります。

規準A	図表	3点
規準B	専門用語	2点
規準C	応用	2点
規準D	分析	3点
規準E	評価	4点
	合計	14点

また、ポートフォリオ全体に適用される内部評価規準が1つあります。

規準F	形式的要件	3点
-----	-------	----

^{コメンタリー}各論評が最初の5つの評価規準（規準A～E）についてそれぞれ評価された後、ポートフォリオ全体が「規準F」に基づいて評価されます。

ポートフォリオ全体に付与される最高得点は45点です（14点^{コメンタリー}×論評3本+3点=42点+3点）。

評価規準は、評価目標に関連しています。

- ・ 規準A：評価目標2および評価目標4
- ・ 規準B：評価目標1
- ・ 規準C：評価目標2
- ・ 規準D：評価目標2
- ・ 規準E：評価目標3
- ・ 規準F：評価目標4

ポートフォリオ——S LおよびH L

規準A：図表

- ・ この規準では、生徒がどの程度、図表を作成し、使用する能力があるかを評価します。

レベル	レベルの説明
0	この成果物は以下に記す水準に達していない。
1	関連する図表（1つまたは複数）が含まれているが、説明されていないか、説明に誤りがある。
2	関連があり正確かつ正しく分類された図表（1つまたは複数）が含まれているが、説明が限定的である。
3	関連があり正確かつ正しく分類された図表（1つまたは複数）が含まれており、説明も十分になされている。

規準B：専門用語

- ・ この規準では、生徒がどの程度、適切な経済用語を使用しているかを評価します。

レベル	レベルの説明
0	この成果物は以下に記す水準に達していない。
1	論評の中に記事に関連する経済用語が含まれている。
2	論評の中で一貫して記事に関連する経済用語が適切に用いられている。

規準C：応用

- ・ この規準では、記事の文脈において、生徒がどの程度、経済的情報を認識、理解し、適用しているかを評価します。

レベル	レベルの説明
0	この成果物は以下に記す水準に達していない。
1	関連する経済的概念と理論（またはそのいずれか）が記事に応用されている。
2	論評の中で関連する経済的概念と理論（またはそのいずれか）が一貫して記事に適切に応用されている。

規準D：分析

- ・この規準では、記事の文脈の中で、生徒がどの程度、適切な経済理論と概念（またはそのいずれか）を説明、発展させているかを評価します。

レベル	レベルの説明
0	この成果物は以下に記す水準に達していない。
1	記事に関する経済分析が限定的である。
2	記事に関する経済分析が適切である。
3	記事に関する経済分析が効果的である。

規準E：評価

- ・この規準では、生徒が自分の分析を組み合わせて、どの程度、妥当な論拠に裏づけられた判断を下しているかを評価します。

レベル	レベルの説明
0	この成果物は以下に記す水準に達していない。
1	判断が裏づけられていない、または誤った論拠に裏づけられている。
2	判断を裏づけている論拠が限定的である。
3	適切な論拠に裏づけられた判断がなされている。
4	効果的かつバランスのとれた論拠に裏づけられた判断がなされている。

規準F：形式的要件

- ・この規準では、完成したポートフォリオにおいて、生徒がどの程度、5つの形式的要件を満たしているかを評価します。
 - 各々の^{コメントリー}論評は、750語（1500字）以内である。
 - 各々の記事は、シラバスの異なるセクションに基づいている。
 - 各々の記事は、異なる適切な情報源からとられている。
 - 各々の記事は^{コメントリー}論評の執筆時からさかのぼって1年以内に公表されたものである。
 - ポートフォリオ全体のカバーシート、3つの^{コメントリー}論評ごとのカバーシートおよび^{コメントリー}論評ごとの記事が含まれている。

レベル	レベルの説明
0	この成果物は以下に記す水準に達していない。
1	形式的要件3つが満たされている。
2	形式的要件4つが満たされている。
3	形式的要件5つがすべて満たされている。

よくある質問

全般

ポートフォリオでは、シラバスのいくつかの領域をカバーする必要がありますか。

ポートフォリオのそれぞれの記事は、必ずシラバスの異なるセクション（ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学、開発経済学）の内容のいずれかに主な焦点を合わせたものでなければなりません。ただし、^{コメンタリー}論評の焦点をあくまでその記事がカバーする領域に置きつつ、シラバスの他の領域を引き合いに出すことは可能です。

新聞とその新聞のウェブサイトは同一の情報源（出所）として扱われますか。

はい。

生徒は多数の新聞社に同時配信されているニュース記事をどのように引用すべきでしょうか。

生徒は時折、通信社（例えばトムソン・ロイター、またはAP通信など）から配信され、別の会社が発行する出版物に掲載された情報を使用することがあります。例えば、ポートフォリオで、異なる新聞2紙に掲載されたトムソン・ロイターによる2つの記事を使用するというようなケースが考えられます。この場合、生徒は通信社名ではなく、最終的にその記事が掲載された出版物を出典として明記しなければなりません。

語数（字数）制限を守ることはどの程度重要ですか。

語数（字数）制限は厳しく、各^{コメンタリー}論評は750語（日本語の場合は1500字）を決して超えてはなりません。語数（字数）制限の中に含まれるものの詳細については、「形式的要件」の^{コメンタリー}セクションを参照してください。モデレーターは、^{コメンタリー}論評の語数が750語（日本語の場合は1500字）を超えた場合、その超過分には目を通しません。また、そのポートフォリオは「評価規準F」の形式的要件については最高点を得ることはできません。

論評で一人称を用いることは適切ですか。

一人称を使用することが容認可能な場合もありますが、しかるべきフォーマルな文体を用いることが求められています。

論評の語数（字数）を削るために脚注、文末脚注や図表の項目名を用いて情報を盛り込むことはできますか。

いいえ。生徒が語数（字数）制限を超過しないよう、これらの方法を用いて本来論評の本文に含めるべき情報を別の場所に含めたとモデレーターが判断した場合、「規準F:形式的要件」で最高点が付与されることはないでしょう。

論評をワープロで作成することは絶対必要ですか。

論評をワープロで作成することは、要件には含まれていません。しかし、情報を整然と読みやすく提示することは重要な要件の1つです。これはワープロで作成したほうが容易に達成できます。

生徒が論評3つのうち一部しか完成できなかった場合はどうなりますか。

「論評とポートフォリオ全体の評価」、および「教師の責任」の中の「例外的な学習成果物」のセクションを参照してください。

生徒は論評にどのような種類の情報を記載すべきでしょうか。

生徒は論評ごとのカバーシートにさまざまな詳細を記載する必要があります。「論評ごとのカバーシート」の見本は本資料の「各種書式」セクションに掲載されています。また、IB資料『「経済」ガイド』（2014年11月刊）の「内部評価の詳細」のセクションも参照してください。

教師は、「経済」の履修開始時にどのような情報を提供すべきでしょうか。

「教師の責任」のセクションを参照してください。

教師はどの程度のフィードバックを提供できますか。

「教師の責任」のセクションを参照してください。生徒が提出書類「3/C S」に署名し、論評の最終稿を最終版として提出した後は、決してこれを生徒に返却して加筆修正させることはできません。

生徒が論評を3つ以上執筆した場合、教師はこれらの選択に関わることはできますか。

教師は、生徒が3つ以上論評を執筆した場合でも、決してその選択に関わってはなりません。どの論評を提出するかは、生徒自身が決定しなければなりません。

学習成果物が生徒本人が取り組んだものであることを確認するのは誰の責任ですか。

これは生徒と教師の両方の責任です。オンラインの剽窃検知サイト（www.turnitin.com など）の使用が推奨されています。さらに、教師と生徒の両者が提出書類「3/C S」（カバーシート）に署名し、両者の知る限りにおいてその学習成果物が生徒本人によるものであることを認める必要があります。教師はさらに提出書類「3/I A」にも同様に署名す

する必要があります。剽窃が疑われた場合、教師は必ずDPコーディネーターに通知してください。

ポートフォリオをモデレーターに提出する際、コメントが含まれていなければなりませんか。

コメント（コメントがある場合）は、教師が「教師用採点情報シート」（teacher marking information sheet）に書くものに限定されます。個人の論評にコメントを書き込んではいけません。

十分な理由なしに生徒が学校が設定する校内での論評の締切日を守れなかった場合はどうなりますか。

これは、学校が解決しなければならない問題です。生徒がIBへの提出期限に間に合わない可能性に留意しながら、問題解決に取り組むようにしてください。

生徒がポートフォリオのIBへの提出期限を守れなかった場合はどうなりますか。

生徒がIBへの提出期限に間に合わなかった場合の手続きについてはIB資料『DP手順ハンドブック』に記載されています。教師とDPコーディネーターは、IBISに点数を入力する前に手続きについて確認してください。

内部評価規準

規準A：図表（3点）

図表はコンピューターで作図しなければなりませんか。

いいえ。コンピューターを使用することが推奨されていますが、^{コメントリー}論評そのものと同様、図表も手書きで作成することが可能です。

すでに作成されていた図表を論評に切り貼りすることはできますか。

はい。生徒が、生徒自身が作成したのではない図表を挿入することを選択するのであれば、その図表について必ず出典を明記しなければなりません。ただし、^{コメントリー}論評の目的に合わせて図表を取り入れるのではなく、一般的な図表をそのまま使用した場合、評価規準Aで高い評点を得られない可能性があります。

「軸の名称を正しくつける」（correctly labeled）とはどのような意味ですか。

生徒が軸の名称（軸ラベル）をつける際には注意が必要です。軸ラベルは、「何の価格なのか」、あるいは「何の量なのか」をはっきりと示すものでなければなりません。軸ラベルを「P」と「Q」と表記しただけでは不十分です。グラフにタイトルをつけることが推奨されていますが、満点を得るために強制されているものではありません。また、グラフに

タイトル（例えば「バナナの市場」）がつけられている場合、何に関する市場かが明確であることから、軸ラベルは「価格」および「量」と表記するだけで十分です。

図表はすべて1つの状況からもう1つの状況へのシフトを示す動的グラフでなければなりませんか。

変化が生じていることを（矢印または軸ラベルにより）明確に示す動的グラフは効果的です。何の変化もない静的図表が効果的である場合もありますが、そのようなケースは限定的です。

「十分な」(full) 説明と「限定的な」(limited) 説明の違いは何ですか。

記事の動的な変化への言及がない場合、その説明は「限定的」であると見なされます。また、図表と論評コメンタリーの関連性が十分に述べられていないことも説明が「限定的」であることを示唆します（例えば、図表の特定のポイントへの言及がない、など）。

規準B：専門用語（2点）

専門用語の定義を記す必要はありますか。

最終試験での解答と同様、重要な専門用語については定義を述べる必要がありますが、論評コメンタリーの中の経済用語のすべてを定義する必要はありません。この規準は、論評コメンタリーを通じて適切な専門用語を使用しているかを見るものであり、定義を見るものではありません。

規準C：応用（2点）

「応用」は「分析」とどのように異なりますか。

記事との関連性が効果的でない場合でも経済問題の分析は可能です。「応用」では、分析がその記事にどの程度巧みに関連づけられているかを問います。生徒は、自分の分析が、選んだ記事に対するものとして適切であるかどうかを考えなければなりません。

「応用」では0点で「分析」で高い評点を得ることは可能ですか。

可能ですが、そのような状況はまれです。これら2つの規準は、2つの領域を分離させることを意図しています。「応用」は、論評コメンタリーと記事の関連性だけを見るものです。したがって、「応用」についてどの点を付与するのが最も適切かを判断する際、教師は、生徒が記事に関連する適切な概念と理論を選ぶことができたかどうかを見きわめることに努めてください。

規準D：分析（3点）

「分析」とは具体的に何を意味しますか。

内部評価課題^{コメンタリー}の論評においては、「分析」は**経済学**を用いて経済的理解を表すことを意味します。生徒は必ず経済理論を用いて特定の経済的問題の重要な要素または構造を取り上げることができなければなりません。

規準E：評価（4点）

「評価」とは何ですか。

「評価」は、評価目標3のスキルのうち最も高度なもので、力のある生徒とそうでない生徒で差の出る要素の1つです。生徒は議論についての自分の分析を総合し、それを根拠に基づいて理路整然と裏づけることが求められています。

記事の「評価」に含めることのできる領域にはどのようなものがありますか。

「評価」は、理論についての判断、および「理論は必ずしも正確な説明を提供するわけではない」ということを理解した上での、与えられた状況に対する理論の応用を意味します。

「評価」には、多くの形態があります。

- ・ 生徒はある経済問題について最も重要な理由または要因を特定し、それを自分の選んだ根拠に基づいて理路整然と裏づけることができます。
- ・ 長所と短所が関連する場合は、生徒は最も重要な長所（または短所）の特定に努め、それを選んだ理由の根拠を述べることができます。
- ・ 戦略が提示されている場合は、生徒はその短期的および長期的影響を評価しようと努めることができます。
- ・ データが提供されている場合は、生徒は適切性、信頼性または関連性の点からその有効性を問うことができます。
- ・ 理論を検討する際は、生徒は適切性、信頼性または関連性の点からその有効性を問うことができます。
- ・ 実社会における政策の有効性を判断する場合には、非経済的要因による経済理論の現実的限界について言及することができます。

規準F：形式的要件（3点）

「形式的要件」とは何ですか。

I B資料『「経済」ガイド』（2014年11月刊）の「内部評価規準——S LおよびH L」セクションの中の「規準F：形式的要件」を参照してください。生徒が満点を得るためには、5つの評価規準すべてを必ず守らなければなりません。

チェックリスト

教師用チェックリスト

以下は、内部評価課題に取り組む際に役立つ教師向けのチェックリストです。

- ・ 教師用チェックリスト——ポートフォリオ作成開始時点（26 ページ）
- ・ 教師用チェックリスト——ポートフォリオ作成中（27 ページ）
- ・ 教師用チェックリスト——ポートフォリオ作成の最終段階（27 ページ）

生徒用チェックリスト

以下は、生徒が内部評価課題にきちんと取り組めるよう計画を立てる際に役立つ生徒向けのチェックリストです。

- ・ 生徒用チェックリスト（28 ページ）

コメントリー 論評ごとのカバーシートと、ポートフォリオ全体のカバーシートは必ず添付しなければなりません。本資料の付録に、その見本が収載されています。

教師用チェックリスト——ポートフォリオ作成開始時点

過去の試験セッションにおける「内部評価フィードバック」（I A F : internal assessment feedback form）をチェックする。	
最近の年度の「経済」の科目レポート（subject report）を読む。	
オンラインカリキュラムセンター（O C C）の内部評価に関するディスカッションのスレッドに目を通す。	
生徒用の説明冊子（内部評価規準も記載）を作成する。	
メディアから適切な記事を選択する方法、および使用する情報源について話し合う。	
学校が設定した要件に従い論評を提出する手順について話し合う。	
校内での締切日を設定する。	

教師用チェックリスト——ポートフォリオ作成中

生徒と共に練習用の論評に取り組み、内部評価規準を用いてフィードバックを提供する。	
それぞれの論評用の記事が適切かどうかについて生徒に情報を提供する。	
授業時間を使い、クラス全員で内部評価課題について議論し、取り組む。	
内部評価課題用の論評として優れた見本とそうでない見本を分析する。	
各論評の草稿に、1度だけ書面でアドバイスを提供する。	

教師用チェックリスト——ポートフォリオ作成の最終段階

生徒がシラバスの異なるセクションの内容に基づき3つの記事を選択し、それぞれについて論評を完成させたかチェックする。	
3つの論評からなるポートフォリオが適切なフォルダーに収められ、記事と論評が正しい順序で並べられ、カバーシート（論評ごとのカバーシートとポートフォリオ全体のカバーシート）の記入が済んでいるかチェックする。	
生徒が提出書類「3/C S」の「宣誓」(declaration)の欄に署名したか確認する。	
内部評価規準を用いて課題を採点する。 提出書類「3/C S」の「宣誓」の欄に記入し、点数を記録する。	
サンプルの選択のためにDPコーディネーターに点数を通知する。	
推奨されている「教師用採点情報シート」を使用する場合は、生徒のサンプルについて、これを記入する。そうでない場合は、コメントと点数を記録した別の用紙を添付する。	
提出書類「3/I A」に記入し、「宣誓」の欄に署名する。	
紛失に備え、各ポートフォリオのコピーを保管する。	

生徒用チェックリスト

		論評		
		1	2	3
1	<p>論評ごとのカバーシートにそれぞれ以下を記入しましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記事のタイトル ・記事の出所 ・記事が書かれた日付 ・論評を完成した日付 ・論評の語数（字数） ・記事が関連するシラバスのセクション 			
2	記事を添付しましたか。			
3	長文記事の場合は、関連するセクションをハイライト表示しましたか。			
4	記事が論評とは異なる言語で書かれている場合、正確な翻訳を提供しましたか。原文のタイトルを含めましたか。			
5	インターネットから取得した記事については、そのすべてに完全かつ正確なURLを記載しましたか。ウェブサイトにアクセスした日付を含めましたか。			
6	同じ情報源から複数の記事を使用していないかチェックしましたか。			
7	語数（字数）制限（750語以内、日本語の場合は1500字以内）は守られていますか。			
8	使用した図表に名称を正確につけ、十分な説明を含めましたか。使用した図表は内容と関連がありますか。			
9	記事以外に情報源または参考文献を用いた場合、それらを正確に引用しましたか。記事から引用した場合は、それらを明確に特定しましたか。			
10	紛失した場合に備え、記事および論評のコピーをとりましたか。			
11	完成させたポートフォリオを適切なフォルダーに入れましたか。			
12	3つの論評のためのポートフォリオ全体のカバーシートを完成させましたか。			

各種書式

教師用採点情報シート

注： 教師は採点用情報シートを利用することが強く推奨されています。以下は見本ですが、異なるデザインのものを使用することもできます。

- ・ 教師用採点情報シート（31 ページ）

論評ごとのカバーシート

注： ^{コメンタリー} 論評ごとのカバーシートは必ず添付しなければなりません。異なるデザインのものを使用することもできます。

- ・ I B 「経済」——内部評価用^{コメンタリー}論評ごとのカバーシート（33 ページ）

ポートフォリオ全体のカバーシート

注： ポートフォリオ全体のカバーシートは必ず添付しなければなりません。異なるデザインのものを使用することもできます。

- ・ I B 「経済」——内部評価用ポートフォリオ全体のカバーシート（32 ページ）

提出書類「3 / CS」

提出書類「3 / CS」のコピーは I B 資料『DP 手順ハンドブック』の「セクション：個人と社会（グループ 3）」を参照してください。

提出書類「3 / I A」

注： この書式を必ず使用しなければなりません。

- ・ 提出書類「3 / I A」(34 ページ)

内部評価フィードバックフォーム

注： モデレーターは必ずこの書式を使用しなければなりません。

- ・ 「3 / I A F」(36 ページ) *
- ・ 「3 / I A F」記入見本 (38 ページ) *

* この書類は、I B I S のオンライン上で記入します。

Teacher marking information sheet 教師用採点情報シート

Commentary 1 論評 1	Criterion A: Diagrams 規準 A : 図表	Criterion B : Terminology 規準 B : 専門用語	Criterion C: Application 規準 C : 応用	Criterion D: Analysis 規準 D : 分析	Criterion E: Evaluation 規準 E : 評価	Total marks 合計点	Nature of the article 記事に関する備考
Marks awarded for each criterion available 規準ごとの評点	/3	/2	/2	/3	/4	/14	
Comments コメント						Overall comments 講評	

Commentary 2 論評 2	Criterion A: Diagrams 規準 A : 図表	Criterion B : Terminology 規準 B : 専門用語	Criterion C: Application 規準 C : 応用	Criterion D: Analysis 規準 D : 分析	Criterion E: Evaluation 規準 E : 評価	Total marks 合計点	Nature of the article 記事に関する備考
Marks awarded for each criterion available 規準ごとの評点	/3	/2	/2	/3	/4	/14	
Comments コメント						Overall comments 講評	

Commentary 3 論評 3	Criterion A: Diagrams 規準 A : 図表	Criterion B : Terminology 規準 B : 専門用語	Criterion C: Application 規準 C : 応用	Criterion D: Analysis 規準 D : 分析	Criterion E: Evaluation 規準 E : 評価	Total marks 合計点	Nature of the article 記事に関する備考
Marks awarded for each criterion available 規準ごとの評点	/3	/2	/2	/3	/4	/14	
Comments コメント						Overall comments 講評	

Marks awarded for criterion F: Rubric requirements 規準 F : 形式的要件の評点	/3	Overall comments on portfolio ポートフォリオ全体に関する講評
Total marks awarded ポートフォリオ総合評点	/45	

IB Economics —internal assessment summary portfolio coversheet

IB「経済」——内部評価 ポートフォリオ全体のカバーシート

School code <small>学校コード</small>	Name of school <small>学校名</small>
Candidate number <small>受験番号</small>	Candidate name <small>志願者氏名</small>

Commentary number <small>論評番号</small>	Date article published <small>記事掲載日</small>	Date commentary written <small>論評執筆日</small>	Different and appropriate source <small>情報源 (各論評につき異なる情報源で、かつ適切なものであること)</small>	Section of the syllabus the article relates to <small>記事と関連するシラバスのセクション</small>	Number of words <small>語数 (字数)</small>
1					
2					
3					

参照用

IB Economics —internal assessment coversheet
IB「経済」——内部評価 論評ごとのカバーシート

School code 学校コード	Name of school 学校名
Candidate name 志願者氏名	
Candidate number 受験番号	
Teacher 教師氏名	
Title of the article 記事のタイトル	
Source of the article 記事の掲載元	
Date the article was published 記事の掲載日	
Date the commentary was written 論評の執筆日	
Word count (750 words maximum) 語数・字数 (750語以内、日本語の場合1500字以内)	
Section of the syllabus the article relates to (please tick the one that is most relevant) 記事に関連するシラバスのセクション (最もあてはまるものに印を記入してください)	<input type="checkbox"/> Section 1: Microeconomics セクション1:ミクロ経済学 <input type="checkbox"/> Section 2: Macroeconomics セクション2:マクロ経済学 <input type="checkbox"/> Section 3: International economics セクション3:国際経済学 <input type="checkbox"/> Section 4: Development economics セクション4:開発経済学



Internal assessment: group 3

内部評価:個人と社会(グループ3)

Submit to: **Moderator**

提出先: モデレーター

Arrival date: **20 Apr / 20 Oct**

必着日: 4月20日/10月20日

Session:

セッション

School number:

学校番号

0	0						
---	---	--	--	--	--	--	--

School name:

学校名

- Write legibly using black ink and retain a copy of this form.
黒インクを使用し、楷書で記入後、この用紙のコピーを保管してください。
- Complete this form in the working language of your school (English, French or Spanish).
IBの使用言語(英語、フランス語またはスペイン語)のうち貴校が使用している言語で記入してください。
- Select the samples identified by IBIS and include one completed copy of this form with the sample of work for each group 3 subject submitted by your school
IBインフォメーションシステム(I B I S)で特定されたサンプルを選択し、記入済みのこの用紙を貴校が提出する「個人と社会」(グループ3)の各科目の学習成果物のサンプルとともに提出してください。

Subject: 科目 _____ Level(s): レベル

Details of candidates whose work is submitted: 学習成果物を提出する志願者の詳細

Copy the details from 3/CS forms. 提出書類「3/CS」から詳細を写してください。

The marks listed below must be the same as the internal assessment marks entered on IBIS.

下記の得点は、必ずIBISに入力された内部評価の得点と同一でなければなりません。

Candidate session number 受験番号	Candidate name 志願者氏名	Total 合計点
-------------------------------	----------------------	-----------

If the entry for this subject and level or combined levels is 1 to 20 candidates, the sample size is 5 candidates.
この科目およびレベル、または両レベルを合わせた場合の志願者数が20人以下の場合は、5人分のサンプルが必要です。

1	<table border="1"><tr><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	0	0							_____	<table border="1"><tr><td></td></tr></table>	
0	0											
2	<table border="1"><tr><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	0	0							_____	<table border="1"><tr><td></td></tr></table>	
0	0											
3	<table border="1"><tr><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	0	0							_____	<table border="1"><tr><td></td></tr></table>	
0	0											
4	<table border="1"><tr><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	0	0							_____	<table border="1"><tr><td></td></tr></table>	
0	0											
5	<table border="1"><tr><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	0	0							_____	<table border="1"><tr><td></td></tr></table>	
0	0											

If the entry for this subject and level or combined levels is 21 to 40 candidates, the sample size is 8 candidates, so an additional 3 candidates must be included.

この科目およびレベル、または両レベルを合わせた場合の志願者数が21~40人の場合は、8人分のサンプルが必要となります。上記に追加して3人分の詳細を以下に記入してください。

6	<table border="1"><tr><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	0	0							_____	<table border="1"><tr><td></td></tr></table>	
0	0											
7	<table border="1"><tr><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	0	0							_____	<table border="1"><tr><td></td></tr></table>	
0	0											
8	<table border="1"><tr><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	0	0							_____	<table border="1"><tr><td></td></tr></table>	
0	0											

If the entry for this subject and level or combined levels is 41 or more candidates, the sample size is 10 candidates so in addition to the 8 candidates above, another 2 candidates must be included.

この科目およびレベル、または両レベルを合わせた場合の志願者数が41人以上の場合は、10人分のサンプルが必要となります。さらに2人分の詳細を以下に記入してください。

9	<table border="1"><tr><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	0	0							_____	<table border="1"><tr><td></td></tr></table>	
0	0											
10	<table border="1"><tr><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	0	0							_____	<table border="1"><tr><td></td></tr></table>	
0	0											

Internal assessment feedback form (IAF): group 3
内部評価フィードバックフォーム(IAF):個人と社会(グループ3)

IA Feedback 内部評価フィードバック

School:
学校名

Examiner:
試験官氏名

Subject:
科目

Level:
レベル

**School
Language:**
学校の使用言語

Internal assessment feedback form: group 3 内部評価フィードバックフォーム:個人と社会(グループ3)

Name of teacher/s responsible
担当教師氏名(複数可)

A. COMMENTS TO TEACHER ON SAMPLE WORK - suitability or appropriateness of work in meeting IA requirements サンプルに関する教師へのコメント——サンプルは内部評価の要件に適合しているか、また適切であるか

Have the formal requirements been met?
形式的要件は満たされていますか。

What are the strengths of the sample work?
サンプルの優れた点は何ですか。

参照用

Which aspects of the sample work need improvement?
サンプルのどの要素に改善が望まれますか。

Have the assessment criteria been applied to appropriate aspects of the candidate work?
評価規準は志願者の学習成果物に対して適切に適用されていますか。

B. CLERICAL/PROCEDURAL 事務手続きに関するコメント

Was the sample work and documentation received by the due date?
サンプルおよび必要書類が提出期限までに届きましたか。

Was all of the required work submitted?

必要な学習成果物はすべて提出されていますか。

Was a completed copy of form 3/IA submitted?

提出書類「3 / I A」は記入され提出されていますか。

Was a completed copy of form 3/CS attached to each candidate's work?

志願者の学習成果物それぞれに記入済みの提出書類「3 / C S」が添付されていますか。

Were the marks for each sample candidate entered clearly and correctly?

サンプルとなった各志願者の得点は明確かつ正確に入力されていましたか。

参照用

Internal assessment feedback form (IAF): group 3 内部評価フィードバックフォーム (I A F) : 個人と社会 (グループ 3)

IA Feedback 内部評価フィードバック

School:

学校名

Examiner:

試験官氏名

Subject: 「経済」

科目

Level: HL / SL

レベル

School**Language:** 英語

学校の使用言語

Internal assessment feedback form: group 3 内部評価フィードバックフォーム:個人と社会(グループ3)

Name of teacher/s responsible

担当教師氏名(複数可)

匿名

A. COMMENTS TO TEACHER ON SAMPLE WORK - suitability or appropriateness of work in meeting IA requirements

サンプルに関する教師へのコメント——サンプルは内部評価の要件に適合しているか、また適切であるか

Have the formal requirements been met?

形式的要件は満たされていますか。

はい。ただし、記事の掲載元であるウェブサイトの完全なアドレス (URL) が記載されていません。『「経済」教師用参考資料』には、必ずウェブサイトの完全なアドレスを記載するよう明記されています。このサンプルではウェブサイトのタイトルしか記載されていません。また、そのサイトにアクセスした日付も必ず記載しなければなりません。

What are the strengths of the sample work?

サンプルの優れた点は何ですか。

能力の面できわめて多様な生徒たちが混在していることが明らかに見てとれます。到達度の高い生徒は、より洗練されたレベルで理論を導入することができます。

Which aspects of the sample work need improvement?

サンプルのどの要素に改善が望まれますか。

今後、重点的に取り組むべき課題となり得る総合的な領域が2つあると感じました。すべての図表が優れているわけではありませんでした。図表は十分に大きいのか、十分に説明されているのか、本文で直接言及されているかという点を確認するとよいでしょう。私が受け取ったサンプルは原本のコピーで、一部の図表は明瞭ではありませんでした。「評価」は、比較的能力のある生徒であっても、よいとはいえませんでした。私は、この部分の評点には、1点または2点分の見解の相違を感じます。今後この領域に重点的に取り組むことは有益であると思います。

Have the assessment criteria been applied to appropriate aspects of the candidate work?

評価規準は志願者の学習成果物に対して適切に適用されていますか。

0点と採点されたもののうちの1つについて、なぜ0点なのかの理由が完全に明確ではありませんでしたが、「評価」を除き、総じて採点には同意します。

B. CLERICAL/PROCEDURAL 事務手続きに関するコメント

Was the sample work and documentation received by the due date?

サンプルおよび必要書類は提出期限までに届きましたか。

はい。

Was all of the required work submitted?

必要な学習成果物はすべて提出されていますか。

はい。

Was a completed copy of form 3/IA submitted?

提出書類「3 / I A」は記入され提出されていますか。

はい。

Was a completed copy of form 3/CS attached to each candidate's work?

志願者の学習成果物それぞれに記入済みの提出書類「3 / C S」が添付されていますか。

はい。

Were the marks for each sample candidate entered clearly and correctly?

サンプルとなった各志願者の得点は明確かつ正確に入力されていましたか。

はい。
